



さんSUNベビー11人目

令和2年2月18日に出産されたママから手記が届きました！

今回は、大橋院長の娘さんが出産され、さんSUN助産院としても、とてもうれしい出産でした。大橋先生もおばあちゃんになり、眉がたれ、目が細くなり、孫ってこんなにうれしいのだなと、こちらまで幸せを頂きました。そんな出産後、娘様より手記を頂きましたのでご紹介いたします。



母にエコー写真を見せたのが、つい昨日のように思い出されます。母は飛び上がるように喜び、その姿を見て私もとても嬉しかったです。口に出して約束はしていませんでしたが、お産の際は母にとりあげてもらうのがいつしか共通の夢になっていました。健診の時は、毎回孫に「かわいいね～。ばあばだよ～」と声を掛け、顔はもうおばあちゃんの顔になっていました。妊娠の経過は順調でしたが、妊娠30週を過ぎてから逆子を指摘されました。そのうちまわってくれる、今はこの体勢がいいのだろうと思っていましたが、なかなか回らず。逆子に効くというのはいろいろ試しましたが効果はなく、週数が経つにつれまわってくれない我が子や自分に苛立ちを感じ、出産が近づくのが嫌になってきました。家族や周囲の人たちがかけてくれる言葉も、「母子の健康が1番とか言っても、どうせ帝王切開になったら残念そうに思われるんだ。お腹を切る私の気持ちなんて誰もわからないでしょ。」としか思いませんでした。自分も同じように妊婦さんたちにかけてきた言葉は、私を励ますどころか、普通のお産を選択できない自分を否定される感覚でした。こんなはずじゃなかった。

私の気持ちとは裏腹に淡々と時は過ぎ、子どもは順調に大きくなりすぎ(笑)、予定より早く手術となりました。麻酔は効くのか、術後の痛みには耐えきれぬのだろうか、傷残るだろうな～…帝王切開になってしまって母はがっかりしてないだろうか…。色々な気持ちを抱えたまま、手術当日を迎えました。1番恐かったのは麻酔。ちゃんと効くのだろうかとかビビってました。え？まだ触ってるのわかりますよ？え？もう子どもがでてくるの？ちょっと…そんな…まだ心の準備が…とされているうちに、赤ちゃんが出てきました。母が嬉しそうに抱っこし、保育器へ。263日間一緒にいた息子とは数秒で離れ、外で夫・家族が感動の対面。1人残った私は、手術台の上で用なしのお腹を縫われている。手術室だけすごく遠いところにあるような、体も心も空っぽになったような感覚でした。感動や空虚感、色々な感情に涙が止まらず、手術中外で待ってくれてた家族へお礼も言えず、息子の顔もしっかり見れず部屋へと戻りました。これはほんと後悔(笑)

術後は、周りからほんとにお腹を切ったの？と言われるほど元気でした。

痛みよりわが子。まさにその通りだと感じました。わが子はとてもかわいかったですが、私はこれからこの子を育てていかなきゃいけない、お母さんになったんだから頑張らないと。という責任感のほうが大きかったです。夜は息子がいなくなったペしゃんこのお腹を触りながら、息子は寂しくないかな、ちゃんと寝れてるかな、泣いてないかな、お腹すいてないかなと隣のベビー室の息子を感じながら過ごしました。

家族は毎日面会に来てくれました。術後の状態は良好で、息子はかわいくてお利口さんだとみんなが言いました。しかし、手術の傷の痛みと、乳首のもげるような激痛に耐えながら、手探りで授乳。なかなか増えない直母量。術後の持続点滴。漏れてしまって刺し直し。ごめんなさい。こんなはずじゃなかったお産。こんなはずじゃなかった産後。赤ちゃんはお利口さんで家族にも恵まれてるのに、私はなんでこんなにきついんだろう。なんでうまくいかないんだろう。友人は楽しそうに子育てしてるのになんで自分は序盤でくじけてるんだろう。こんなんで母親になれるのだろうか？止まらない「なぜ？」と想像以上に高い母親という壁に押しつぶされそうになり、悲しく、失望し自信をなくしました。あーこんなはずじゃなかったのに。

そんな私に母は黙って寄り添い、ケアをしてくれました。なにも話しませんでしたが、温かい時間を過ごしました。ごめんね、お母さん。ごめんね。何回も心の中で謝りました。お産も満足いく形にしてやれなかった、娘はちゃんと一人前の母親にもなりきれない。ごめんね。

退院後は実家で過ごしました。母は仕事をしながら私を精神的に支えてくれました。私は、初孫だし母のために実家で過ごそうと思っていましたが、母は「孫はかわいいけど娘が1番かわいい。母親になっていく娘が可愛くてしかたない。」と何度も言っていました。そして私と息子を、昔の母と私をみているようだと思わせようと嬉しそうに話していました。

私は理想のお産ができなかった、こんなはずじゃなかったと悔やみ何回もくじけそうになりました。しかし今、家族の真ん中に息子がいて息子中心の生活がとても楽しく、幸せだと感じています。まあそんなトントンとうまくいかないよねっと今では思えます。たぶん母も、そんなこと気にせんでよか。今から頑張らんばとに。と笑ってくれるでしょう。赤ちゃんってすごい。そしてお母さんってすごい！すごーく頑張ってる！自分が母になって、改めて自分の母の偉大さを感じました。孫を猛烈に溺愛する母。自分の母を越えることはできないけれど、自分もいつかあんなお母さん・ばあばになるのかあと思うと、幸せいっぱいです。

先輩ママさんからしたらひよっこの体験談だったかもしれませんが。読んでくださりありがとうございました。

手記 吉永明香音

2020年2月18日私はおばあちゃんになりました。とてもとても嬉しかったです。孫は可愛いです。

そうだろうとは予想していましたが、予想をはるかに上回る程可愛いです。孫がどんなに可愛くても大切なのは娘で有る事には変わりありません。娘が無事肉体的・精神的・本能的に母親になってくれる事を願いサポートしました。娘は私以上に母になり宝物を大切に育てています。ありがたい感謝の気持ちでいっぱいです。命が繋がる事、何と素晴らしい事でしょう。院長大橋